

南三陸町総合計画審議会令和5年度第2回専門委員会議 会議の概要

- 1 日 時：令和5年6月13日（月）午後5時55分から午後8時
- 2 場 所：南三陸町役場2階会議室
- 3 出席委員：11名
伊澤仁寿委員、工藤大樹委員、工藤泰彦委員、佐藤久一郎委員、高橋裕香里委員、高橋吏佳委員、田中郁子委員、芳賀英則委員、畠山扶美夫委員、山内義申委員、吉田信吾委員（氏名カナ順）
- 4 欠席委員：3名
及川和人委員、小野寺成明委員、星一敏委員（氏名カナ順）
- 5 事務局：企画課 課長 岩淵武久
企画課 課長補佐兼政策調整係長 阿部好伸
企画課 佐藤悠
- 6 オブザーバー：ランドブレイン株式会社仙台事務所 姜守範、植野新
- 7 会議次第
 - 1 開会
 - 2 ワークショップ（南三陸町第3次総合計画基本構想骨子案について）
 - (1) 社会経済の動向、町の概況及び意向調査等を踏まえた「まちづくりの課題」について
 - (2) 骨子案に基づく「まちづくりの理念」について
 - (3) 第3次総合計画に掲げる「将来像」について
 - 3 その他
 - 4 閉会

午後5時55分開会

（事務局）

定刻前ではございますが、ただ今から南三陸町総合計画審議会令和5年度第2回専門委員会議を開会いたします。

本日の会議は、町の総合計画策定支援業務を受託していただいておりますランドブレイン株式会社の姜さんと植野さんの2名にファシリテーターとして参画いただきます。

それでは、姜さん、植野さん一言お願いいたします。

姜氏、植野氏挨拶

（事務局）

本日の会議ですが、皆様のお手元に配付をしております次第に基づき、ワークショップ形式で進めてまいります。先週末に皆様へ配付した資料について、既に内容をお目通しいただいているかと思いますが、事務局から若干補足をさせていただきます。まずは、資料1の「南三陸町第3次総合計画基本構想骨子事務局（案）」をご覧ください。資料には、社会・経済の動向、町の概況、昨年度実施したアンケート調査結果が記載されております。これらを踏まえた結果、まちづくりの課題

として5項目を事務局案として挙げました。次に、資料2の「まちづくりの理念と将来像(案)」についてですが、こちらは、現在の町の状況やまちづくりの課題を踏まえ事務局案を作成いたしました。特に将来像の部分につきましては、町長に次期総合計画における将来像の考えを伺ったところ、町が保有する財産・資源、それから、まちづくりの方向性は大きく変わるわけではないとのご意見もいただいたことから、事務局で精査を行った結果、現行計画の将来像である「森里海ひとのちめぐるまち 南三陸」をそのまま踏襲する形で事務局案として整理いたしました。

それでは、これらの内容について、グループごとに話し合いを行っていただきますので、よろしくお願いたします。

専門委員が2グループに分かれ、ワークショップ形式で話し合いを行った(約90分間)

午後7時40分

(オブザーバー)

それでは、グループで話し合った内容を発表していただきます。

(Bグループ代表委員)

まちづくりの課題について、1点目は人口問題である。世界的な問題にはなるが、人口減少に対して、今後どのように南三陸町が関わっていくべきかとの話が出た。併せて、町内企業においても、人材不足、なり手不足の部分を今後どのように補っていくのかということも問題となっている。

2点目は、コミュニティの変化問題である。東日本大震災の影響で、暮らしの場が高台へ移転することによって、居住形態の変化に対応できなかつたり、これまでの近隣同士の付き合いが薄れたりしている等の意見が挙げられた。そのような中で、高齢者の社会参加や見守り体操の充実が必要であると考えた。

本日、社会福祉協議会が主催となり、「赤ちゃんの預かりあいっこ」を行った。地域の母親たちが公的なサービスを使用せずに2時間から3時間程度、子どもから離れて、自分の時間をリフレッシュするといった取り組みも始めている。まだ町内全域に広がっていないためそういった部分で子育て環境の充実を図っていくことが必要である。子どもの視点からは、遊べる場所がもっとほしいとの声も挙がっている。

3点目は、若者が地元で働けるような環境づくりが整っていないという問題である。給料が上がっても手取り額が増えないという不満や、後継者が不足していることが原因となっているという意見があった。他には、農地活用の問題や行政の連携体制が挙げられた。

まちづくりの理念については、多くの意見が出た。まずは、事務局案の「東日本大震災から12年が経過し」という箇所だが、次期総合計画は10年後も掲げていくという考えに基づけば、12年という文言を削除したほうが良いとの意見があった。他には、全体的に内容が固く、誰が読んでも分かりやすいものではないといった声が出た。文章の中で、ハード面を指している内容とソフト面を指している内容が混在しているようにも見える。福祉、健康に関する言葉が入っていないとの指摘もあった。どちらかといえば、「森里海ひとのちめぐるまち 南三陸」という事務局案の将来像は、逆に理念に掲げて良いのではないかと感じている。

将来像について、次期総合計画でも同じ文言を踏襲するとの案だが、総合計画を策定する意味がないのではないかとの声が挙がっている。将来像なので将来を見据えた言葉が必要であると思うし、

「森 里 海 ひと いのちめぐるまち」は、これまでもあったものであり、今もそしてこれからもあるということを考えると、もう少し違った言葉でも良いのではないかと思う。委員からは、核となる部分は「ひと」であり、その上に、森があり海があり繋がりがあるという図で表してもらった。将来像の重要なキーワードは「ひと」である。「森」、「里」、「海」は他の地域にもあるが、南三陸においては、東日本大震災から立ち直ってきた住民、その強みを復興、復旧に掲げてきた足跡を将来像に反映させていければと思っている。言葉ではうまく表せないが、そのような形でまとめた。

(Aグループ代表委員)

まちづくりの課題については、Bグループと内容が類似していると感じた。話し合いで出た意見を「教育・子育て」、「産業」、「交通」、「福祉」、「コミュニティ」、「移住・定住」といった形でグループ分けを行った。「教育・子育て」の分野においては、町内にスポーツ施設があるが実は利用者が少ないという話が出た。野球場にしてもサッカー場にしても、県内で有数な一流施設を上手く活用できていない。窓口を一本化することにより改善できるのではないかという意見があった。これをうまく活用することで、子育て環境が改善されたり、子どもたちに対する経済的な支援ができるのではないかという声もあった。また、子どもたちが安心して遊べる場がないとの意見もあった。

「産業」、「交通」の分野については、町内で就職をしようとする方がいても、給料の問題があったりするため、若い人が残れる環境がないとの意見が挙げられた。また、大企業誘致に関する話題も触れられた。加えて、町内には日用品の購入ができる店舗が少なく、高齢者の方々にとっても歩いて買い物にいけるような店がないため、生活の不便さが交通の問題につながっているのではないかという意見が挙げられた。それぞれ高台に住まいがあるため、そこから買い物に行くにしても歩いていくのは難しい現状であるため、様々な面で充実させることが必要である。

「コミュニティ」の分野については、東日本大震災にて崩壊した地域性のつながりをどのように復活させていくか話題になった。インフラの整備にも近いが安心して暮らせる町にするためには、近くに専門医が常駐している病院がなく、近隣の自治体へ30分から40分かけていかなければならないといった問題等を解決しなければならない。

「移住・定住」の分野では、人口減少に対して、Uターンしてくれる方々を増やしたり、少子高齢化対策に向けてこれからの10年を考え、日本国内だけでなく、世界の方々が移住してくれるような受入れ体制を構築する必要がある。

まちづくりの理念については、どちらかという理念と将来像が逆ではないだろうかという意見が挙げられた。Bグループと同じ結論となるが、「ひと」というキーワードが大事であり、南三陸町は地域の中に自然豊かな資源があるが、やはり「ひと」が重要であると実感する。「ひと」を大事にしなければ「自然」を活かすことにはつながらない。これらを踏まえ、「ひと」が主役のまちづくり若しくは「ひとづくりから始まるまちづくり」等掲げたい。

将来像については、「幸せに暮らせるまちづくり」を掲げたい。「暮らしの質の向上」や「楽しそうなまち」といった委員の方々の意見を集約し、特に「暮らしの質の向上」の「質」の部分には、物質的なものだけでなく、精神的なものも含まれていることも踏まえこの結論に至った。

(事務局)

ありがとうございました。どちらのグループも活発な話し合いをしていただき、発表内容も素晴らしいものでした。発表していただいた意見を事務局にてまとめ、次回の会議でお示しいたし

ます。

本日は、これで終了となります。大変お疲れ様でした。

午後 8 時終了